
緋弾のARIA ~ 無音の狙撃手 ~

ドリル男爵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のARIA〜無音の狙撃手〜

【Nコード】

N1648BA

【作者名】

ドリル男爵

【あらすじ】

東京武偵高校、武力を行使できる探偵である武偵を育成するその高校に転校してきた東郷忠一は、過去に引き起こした事件から銃の引き金を引けなくなっていた。

緊急時にも銃器を使わず、ただ傍観か近接戦闘での対応のみを決め込み、所属するアサルトの授業にも出席しない彼を、いつしか学校の人間はチキン（臆病者）と揶揄するようになっていた。

そんな言葉も全く気にすることなく、定位置である屋上でぼんやりと空を眺めていた時、彼は狙撃科に所属するSランク狙撃手レキと出会う。

その時、まだ彼は知らなかった。

このレキという名の少女が、ただ過ごすだけの毎日を変えるきっかけになる事を。

注意

・冒頭から残酷な描写が含まれます、苦手な方は見ない方がいいです。

・この小説は緋弾のアリアの二次創作で、戦闘描写の練習したいけどまた新しく設定考えて小説書くのが面倒くさい作者のわがままで生まれた小説です。

なので更新頻度はかなり遅いです。

序 『無音の狙撃手』

暗くぼんやりとした輪郭を持つ世界、背景の黒の上に緑や赤といった温度で色分けされた色彩が映し出されるそれが、サーモスコープから送りだされてくる標的の体温だと認識する頃には、照準線の中に彼、もしくは彼女の頭部を捉えていた。

それから手にする特殊用途狙撃銃、そのスコープと一体化した視線を左右に移動させてみると、様々な武装が施された男たちの存在が明るみになった。

恐らくは中国かその辺からの輸入品であろうカラシニコフ小銃のデッドコピー版を基本とし、一世代前の主力車両ならば一撃で走行不能に陥れられるであろうRPG-7対戦車ロケット砲やSV-98狙撃銃を携える多国籍の人間およそ三十人で構成された彼らは、今まさに行軍を行おうとせんと隊列をなしていた。

その構造の簡素さと、部品と部品のクリアランス（隙間）を大きく取ることとどんな劣悪な環境でも故障しにくく、低い工業能力でも生産できるカラシニコフ小銃をはじめとする彼らの装備は、テロリストの兵器とあだ名される物ばかりで埋め尽くされていた。

そういつた軍勢をサーモスコープでくまなく確認した一人の男は、手には旧ソ連軍が開発した特殊用途狙撃銃ヴィントレスの特異なフォームを浮かび上げらせ、プローン（伏射）の姿勢をとって静かに息を殺していた。

AKにRPG-7を装備した強武装の軍勢が、少なくとも装備だけは骨のある奴ばかりが揃っているな。

整列する小隊を目の前にして、狙撃姿勢を保ったままで舌舐めずりした男は、首に巻きつけられた骨伝導マイクに声を吹きこむ為に、数時間は震わせていない声帯に力を込める。

(識別番号01、目標の小隊を発見。武装はAKにRPG-7にS
V-98狙撃銃。指示を待つ)

何時間もの間、極寒の中に身を置きながら無言で狙撃姿勢をとっていた事と、およそ四百メートル先に作戦会議で説明された狙撃目標の小隊がいる事、その二つの要因が相まって、骨伝導マイクに吹きこまれた声は思った以上に低くしわがれた物になっていた。

だが、そんなしわがれた声でも、彼と同じく骨伝導マイクを首に巻き、然るべき武装を整えて周辺に展開しているであろう仲間達には十分だったらしい。

(指揮官より識別番号01へ、目標の小隊をこちらでも確認。既に周囲への特殊部隊の配置は終了した。後はいつも通りの手法で特殊部隊の突入を開始する)

その名の通り空気ではなく人体内部の骨を振動させることで音を聴覚に伝える骨伝導マイクは、周囲に音を全く漏らさずプローンでの照準を続ける男に仲間達の意図を伝えてきた。

体内の骨を密かに振動させたその声を聞いた男は、先程よりも一層

集中して一番初めにサーモスコープ越しに視認した大男に再び照準を合わせた。

小隊の先頭に立ち、構成員達に何か語りかけているといった様子の
大男は、小隊の指揮官であり、今は演説が何かで部隊の士気を高めて
いる最中だろう。

カラシニコフライフルに長射程の狙撃銃、終いには対戦車ロケット
砲で武装した小隊。

彼らがどれだけの訓練を受けているかどうかは推測するしかなかっ
たが、少なくとも武装は通常の軍隊と大差ない装備だ。

戦闘訓練が付け焼刃程度だったとしても、彼らが“目標施設”への
侵攻を果たすことができれば、近隣住民はおろか、この極寒の大地
に位置する国家の根幹をも揺るがす事態へと発展する。

現在、小隊が保有している山中のアジト、そこからしばらく進んだ
場所に位置する軍事格納庫、そこにある物の名称も危険性も十二分
に理解していた男は、目が痛くなるようなサーモスコープの照準線
の中心から少し下に、防寒着に包まれていないせい、他の部位よ
りも低い温度で表示されている頭部を持つてくる。

自分の報告に応答してきた指揮官、たぶん“大佐”が伝えてきたい
つも通りの手法。

自分の初弾での狙撃成功を合図に特殊部隊を突入させる手法。

それを脳裏に描いた男はVSS狙撃銃のトリガーを遊びが無くなる
まで引く。

照準した大男が演説の最後に手にしたカラシニコフライフルを掲げた瞬間、手ブレを抑える為に息を止めていた男は、遊びが完全に消えていたVSSの引き金を一息に絞った。

今まで眠っていた撃針が9×39mm弾の雷管を叩き、叩かれた雷管が銃弾内の発射薬を燃焼させ高压ガスを発生させると、その凄まじい圧力にさらされた大口径の弾頭は銃身内を音速に近い速度で突き進む。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1648ba/>

緋弾のARIA～無音の狙撃手～

2012年1月4日05時45分発行